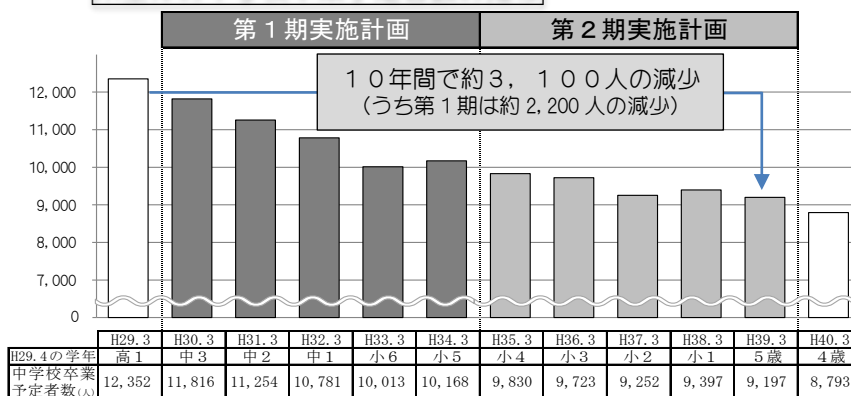


背景

- 社会の急速な変化（グローバル化等の進展、少子高齢化の進行等）
- 高大接続改革等高校教育を巡る環境の変化
- 生徒の進路志望等の多様化
- 平成29年3月からの10年間で約3,100人の中学校卒業予定者数の減少

県全体の中学校卒業予定者数の推移



第1 第1期実施計画策定の経緯(P1~P2)

基本方針を踏まえるとともに、計画案公表後にいただいた意見等を基に検討を重ね、平成30年度から34年度までの具体的な内容（学校・学科の充実、学校規模・配置等）を示す第1期実施計画を策定しました。

計画策定の経緯(P1~P2)

- 平成26年6月：青森県立高等学校将来構想検討会議へ諮問
- 平成28年1月：同会議の答申
 - 5月：基本方針（案）公表
 - 5月～6月：地区懇談会、パブリック・コメント実施
 - 8月：基本方針決定
- 平成28年9月
 - ～29年1月：地区意見交換会（県内6地区×3回）開催
- 平成29年4月：第1期実施計画（案）公表
 - 4月～6月：地区懇談会、パブリック・コメント実施
 - 7月：第1期実施計画決定

計画策定・推進の観点(P2)

充実した教育環境の整備

- 全ての高校において魅力ある教育活動を推進
- 各学科の特色ある教育活動の中核的役割を担う高校を配置し、県全体の高校教育の質の確保・向上
- 生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むため、学校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置

各地域の実情への配慮

- 生徒の通学環境や地域における高校の役割等に配慮した学校配置

第2 学校・学科の充実(P3~P15)

全ての高校において、今後求められる人財を育成するため、生徒一人一人の学習意欲の向上に十分配慮しながら、各校が創意工夫するとともに相互に連携し、生徒の進路志望や地域の期待等に応えることができるよう、それぞれの特徴を生かした魅力ある教育活動の推進に向け、次のとおり取り組みます。

全ての高校に共通して求められる教育環境(P3~P4)

ア 課題の発見と解決に向けた
主体的・対話的で深い学びの実践

- 主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、各授業等の充実を図ります。
- 深い学びの視点に基づく探究型学習に取り組みます。
- 他的高校との連携・協力による教育活動や地域の教育資源を活用した教育活動を推進します。
- 教員研修の充実を図ります。

イ 社会人・職業人として自立するために
必要な能力や態度の涵養

- 生徒一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、学校の教育活動全体を通じ、キャリア形成に取り組みます。

ウ ICTの活用による教育活動の充実

- 学習指導におけるICTの適切な活用、情報通信ネットワークを活用した生徒同士の探究活動、進路講演会等の実施について、引き続き研究します。

エ 発達障害等の特別な支援を
必要とする生徒への対応

- 国の制度改正等の動向を踏まえ、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応として、教員研修や人事交流等における特別支援学校との連携を強化するとともに、通級による指導等に段階的に取り組みます。

(1) 普通科等

(各校の教育環境の充実)

- 各校の情報共有等により、**大学等への進学や就職等、生徒の幅広い進路志望に対応するとともに、特色ある教育活動の充実を図ります。**
- 各地域の実情に応じた教育活動や各校の特色を生かした**グローバル人材・科学技術人材の育成に向けた取組等を推進**します。
- 生徒の意欲的な取組を推進するため、選抜性の高い大学への進学に対応した取組とともにグローバル教育や理数教育等の特定分野における先進的な取組等、今後求められる人材の育成に向けた**特色ある教育活動の中核的役割を担い、一定の規模を有する重点校を配置**します。

地区	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八
重点校	青森	五所川原	弘前	三本木	田名部	八戸

- ◆ 県全体の普通科等における教育の質の確保・向上を図るため、各校の生徒一人一人の学習意欲の向上等に配慮しながら、重点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携により、生徒の進路志望の実現に向けた**確かな学力の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備**します。
- ◆ 生徒の興味・関心や進路志望等の多様化に対応し、地域が求める人材を育成するため、地区の実情から5学級規模であっても重点校としての役割を果たす必要がある**田名部高校に単位制を導入**するとともに、その他の重点校に併設型中高一貫教育を第2期以降の実施計画において導入すること等について検討します。

(学科改編等)

<英語科>

- **英語科(三沢高校・田名部高校)を普通科に改編**します。

<その他の学科>

- 理数科、外国語科、スポーツ科学科、表現科については、引き続き、専門学科としての役割、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて見直しを図ります。

(2) 職業教育を主とする専門学科

(各校の教育環境の充実)

- 職業の多様化に対応できる資質・能力を育み、**高校卒業後も学び続ける態度**を身に付けることができる教育環境を整備するとともに、各校が課題研究等において連携し、特色ある教育活動の充実を図ります。
- 学校の特色を生かして、地域や社会が抱える様々な課題に積極果敢に挑戦し、本県はもとより、**国内外の産業の発展に貢献できる人材の育成に向けた取組を推進**します。
- 生徒の意欲的な取組を推進するため、農業科、工業科及び商業科の高校において、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、各学科における専門科目を幅広く学び、**基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに専門的な学習を深め、各学科の学習の拠点としての役割を担い、一定の規模を有する拠点校を配置**します。

学科	農業科	工業科	商業科
拠点校	五所川原農林	青森工業	青森商業
	三本木農業 (上北地区統合校)	弘前工業 八戸工業	

- ◆ 県全体の職業教育を主とする専門学科における教育の質の確保・向上を図るため、各校の生徒一人一人の学習意欲の向上等に配慮しながら、拠点校が実施する教育活動への各校の生徒の参加や学習成果の共有等の連携とともに、大学との接続を視野に入れた取組や地域、企業等との連携・協力により、**高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人の育成に積極的に取り組むことができる体制を整備**します。

(学科改編等)

<農業科>

学校名	H29の学科		学科改編等	学校名	H29の学科		学科改編等
弘前実業	農業経営科	→	募集停止 ※1	名久井農業	生物生産科	→	生物生産科
三本木農業 (上北地区統合校)	農業機械科	→	環境工学科		園芸科学科		
	環境土木科	→	食品科学科				

※1 柏木農業高校に集約

<工業科>

学校名	H29の学科		学科改編等	学校名	H29の学科		学科改編等
青森工業	機械科	→	機械科	むつ工業	電気科	→	電気科
	電子機械科				電子科		
五所川原工業 (西北地区統合校)	電子機械科	→	電子機械科	八戸工業	機械科	→	機械科
	情報技術科				電子機械科		
弘前工業	建築科	→	建築科		電子科	→	電子科
	インテリア科				情報技術科		
十和田工業	電子科	→	電子科	土木建築科 (土木J-7・建築J-7)	→	土木科	
	電子機械科			→	建築科		

<商業科>

学校名	H29の学科		学科改編等	学校名	H29の学科		学科改編等
黒石商業	商業科	→	募集停止 ※2	十和田西	観光科	→	募集停止 ※4
	情報処理科			八戸商業	国際経済科	→	募集停止 ※5
	情報デザイン科			→	募集停止 ※3		

※2 弘前実業高校に集約

※3 中南地区統合校に学習内容を引き継ぎ

※4 上北地区統合校に学習内容を引き継ぎ

※5 第3次実施計画【後期】に基づき、平成30年度に募集停止

<その他の学科>

- 水産科、家庭科、看護科については、引き続き、専攻科を含む各学科の充実を図るとともに、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて、各専門分野の基礎・基本を重視した学科への見直しを図ります。

(3) 総合学科

- 各校の課題研究における成果等を共有し、特色ある教育活動の充実を図ります。
- 多様な選択科目の充実を図るため、引き続き、地域の社会人や有識者を講師として積極的に活用します。
- 特色ある教育活動の充実を図るため、引き続き、系列の在り方について各校と検討し、見直します。

定時制課程・通信制課程(P14~P15)

(1) 定時制課程

- スクールソーシャルワーカー等専門スタッフによるよりきめ細かな支援体制の整備等、教育環境の充実を図ります。
- 入学者数が大幅に減少し、教育環境の維持が困難となっている工業技術科を募集停止します。
なお、工業技術科の募集停止後であっても、引き続き、他の定時制課程において、職業教育に関する専門科目の充実を図るとともに、高校教育を受ける機会の確保に努めます。

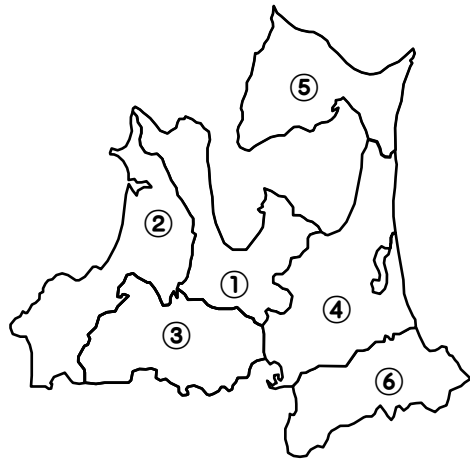
(2) 通信制課程

- ICTを活用した教育方法の導入に向けて検討し、教育環境の充実を図ります。
- 北斗高校において、後期入学や年度中途からの転入学・編入学等、高校入学後の進路変更に対応します。
北斗高校における実施状況を検証した上で、生徒のニーズ等を踏まえ、他校においても段階的に取り組みます。

第3 学校規模・配置(P16~P28)

生徒数が急激に減少する中であっても、生徒の多様な進路志望等に対応できる学科の選択肢を確保するとともに、校規模の標準を踏まえた計画的な学校配置に取り組みます。

全日制課程(P16~P26)



①東青地区<中学校卒業予定者数：H29 2,920人→H34 2,458人(△462)> <期間内学級数の増減：△7～△8 学級>

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	H29	H34	
青森	普通	7	6	△1		(普通)
青森西	普通	6	6			(普通)
青森東	普通	7	6	△1		(普通)
平内校舎	普通	1	0	△1		H31募集停止
青森北	普通	5	4	△1		(普通、ｽｽﾞｰ科学)
	ｽｽﾞｰ科学	1	1			
今別校舎	普通	1	※1	1		地域校(普通)
青森南	普通	5	4	△1		(普通、外国語)
	外国語	1	1			
青森中央	総合	5	5			(総合)
浪岡	普通	2	2			(普通)
青森工業	工業	7	6	△1		(機械、電気、電子、情報技術、建築、都市環境)
青森商業	商業	6	5	△1		(商業、情報処理)
計		54	47	△7		

②西北地区<中学校卒業予定者数：H29 1,363人→H34 996人(△367)><期間内学級数の増減：△6～△8 学級>

金木・板柳・鶴田・五所川原工業 → 西北地区統合校

- 開校年度：平成33年度
 使用校舎：五所川原工業高校の校舎
 学科構成：普通科2学級
 工業科3学級(機械・電子機械・電気)
- <統合校における教育活動の方向性>
- 普通科：国際理解、地域ビジネス、生活産業等に関する教育に取り組む。
 - 工業科：地域の産業構造に合わせた学習、最先端技術の学習における職業能力開発大学校との連携等を推進する。
 - 普通科と工業科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実や工業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応する。

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	H29	H34	
五所川原	普通	4	4			(普通、理数)
	理数	1	1			
木造	総合	4	4			(総合)
深浦校舎	総合	1	※1	1		地域校(総合)
鱒ヶ沢	普通	2	1	△1		(普通)
中里	普通	1	※1	1		地域校(普通)
西北地区統合校	普通			2	+2	H33募集開始 (普通、機械、電子機械、電気)
	工業			3	+3	
金木	普通	2	0	△2		H33募集停止
板柳	普通	2	0	△2		H33募集停止
鶴田	普通	2	0	△2		H33募集停止
五所川原工業	工業	4	0	△4		H33募集停止
五所川原農林	農業	4	4			(生物生産、森林科学、環境土木、食品科学)
計		27	21	△6		

③中南地区<中学校卒業予定者数：H29 2,552人→H34 2,117人(△435)><期間内学級数の増減：△5 学級>

黒石・黒石商業 → 中南地区統合校

- 開校年度：平成32年度
 使用校舎：黒石高校の校舎
 学科構成：普通科3学級
 情報デザイン科1学級
 [学習内容の引き継ぎ方法(学科、ｺｰｽ等)については、開設準備委員会で検討]
 看護科1学級(専攻科1学級)
- <統合校における教育活動の方向性>
- 普通科：大学進学や就職に向けた教育課程を編成し幅広い進路志望等に対応した教育に取り組む。
 - 情報デザイン科、看護科及び専攻科：地域との連携による教育活動の充実を図る。
 - 普通科、情報デザイン科、看護科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実、情報デザイン科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上や看護科の生徒の専攻科修了後の大学編入等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応する。

(単位：学級)

学校・学科	年度・学級数等	第3次		第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
		H29	H34	H29	H34	
弘前	普通	6	6			(普通)
弘前中央	普通	6	6			(普通)
弘前南	普通	6	6			(普通)
中南地区統合校	普通			3	+3	
	情報デザイン			1	+1	H32募集開始 (普通、情報デザイン、看護)
	看護			1	+1	
黒石	普通	3	0	△3		H32募集停止
	看護	1	0	△1		
黒石商業	商業	4	0	△4		H32募集停止
柏木農業	農業	4	4			(生物生産、環境工学、食品科学、生活科学)
弘前工業	工業	7	6	△1		(機械、電気、電子、情報技術、土木、建築)
弘前実業	農業	1	0	△1		募集停止
	商業	3	3			(商業、情報処理)
	家庭	2	2			(家庭科学、服飾デザイン)
	ｽｽﾞｰ科学	1	1			(ｽｽﾞｰ科学)
計		44	39	△5		

生徒一人一人に、これからの時代に求められる力を育むため、生徒の通学環境等に配慮しながら、次のとおり、学

④上北地区<中学校卒業予定者数：H29 1,958人→H34 1,567人(△391)>

<期間内学級数の増減：△9～△10学級>

(単位：学級)

年度・学級数等		第3次	第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
学校・学科		H29	H34	期間内増減	
三本木	普通	6	6		(普通)
三沢	普通	5	5		英語科を普通科に改編の上、1学級減 (普通)
	英語	1	0	△1	
野辺地	普通	3	2	△1	(普通)
七戸	総合	4	3	△1	(総合)
百石	普通	3	2	△1	(普通、食物調理)
	家庭	1	1		
六ヶ所	普通	2	※1	2	地域校(普通)
上北地区統合校	普通			2	H33募集開始 (普通、植物科学、動物科学、環境工学、食品科学)
	農業			4	
十和田西	普通	1	0	△1	H33募集停止
	商業	1	0	△1	
六戸	普通	2	0	△2	H33募集停止
	商業	2	0	△2	
三本木農業	農業	5	0	△5	H33募集停止
十和田工業	工業	5	4	△1	(機械・IT科 [*] 、電気、電子、建築)
三沢商業	商業	4	3	△1	(商業、情報処理)
計		43	34	△9	

十和田西・六戸・三本木農業

→ 上北地区統合校

開校年度：平成33年度

使用校舎：三本木農業高校の校舎

学科構成：普通科2学級

農業科4学級

(植物科学・動物科学・

環境工学・食品科学)

<統合校における教育活動の方向性>

○ 普通科：地域資源を活用した観光やボランティア等に関する学習に取り組む。

○ 農業科：これからの農業経営に必要な力を身に付けるため、営農大学の教員や学生との交流等を推進する。

○ 普通科と農業科を併設するメリットを最大限に活用し、普通科の生徒のキャリア教育の充実や農業科の生徒の大学進学等へ向けた基礎学力の向上等に学校全体で取り組み、多様な進路志望に対応する。

⑤下北地区<中学校卒業予定者数：H29 689人→H34 578人(△111)>

<期間内学級数の増減：△3～△4学級>

(単位：学級)

年度・学級数等		第3次	第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
学校・学科		H29	H34	期間内増減	
田名部	普通	4	5	+1	英語科を普通科に改編 (普通)
	英語	1	0	△1	
大湊	総合	5	4	△1	(総合)
川内校舎	普通	1	0	△1	H31募集停止
大間	普通	2	※1	2	地域校(普通)
むつ工業	工業	4	3	△1	(機械、電気、設備・IT科 [*])
計		17	14	△3	



※1 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応することとなります。

<2学級規模の地域校>

入学者数が1学級規模の募集人員である40人以下の状態が2年間継続した場合、原則として1学級規模とします。

<1学級規模の地域校>

募集人員に対する入学者数の割合が2年間継続して2分の1未満となった場合、募集停止等に向けて、当該高校の所在する市町村等と協議します。

※2 五戸高校については、県立高校として平成32年度に募集停止する予定とし、同校の設置主体の変更等については、その状況に応じて適切に対応します。

このことに伴い、第1期実施計画(案)において五戸高校と統合することとしていた八戸西高校の第1期実施計画期間内の学級数については、幅を設けて示しています。

⑥三八地区<中学校卒業予定者数：H29 2,870人→H34 2,452人(△418)>

<期間内学級数の増減：△5～△7学級>

(単位：学級)

年度・学級数等		第3次	第1期		備考 ()内はH34の学科構成を示す。
学校・学科		H29	H34	期間内増減	
八戸	普通	6	6		(普通)
八戸東	普通	5	5		(普通、表現)
	表現	1	1		
八戸北	普通	6	6		(普通)
八戸西	普通	4	※2	4～5	(普通、ｽﾎｰﾂ科学)
	ｽﾎｰﾂ科学	1	1	0～+1	
三戸	普通	2	1	△1	(普通)
五戸	普通	2	0	△2	※2 H32募集停止(予定)
田子	普通	1	※1	1	地域校(普通)
名久井農業	農業	3	2	△1	(生物生産、環境ｼｽﾃﾑ)
八戸水産	水産	3	3		(海洋生産、水産食品、水産工学)
八戸工業	工業	7	6	△1	(機械、電気、電子、土木、建築、材料技術)
八戸商業	商業	4	3	△1	(商業、情報処理)
計		45	39～40	△5～△6	

計画的な統合に当たっての留意事項(P26)

- 統合の対象となる学校に入学した生徒は、**入学した学校で学び、卒業**することを基本とします。
- 統合の対象となる学校の教育活動を維持できるよう、教育課程の実施等に要する適正な教職員配置とともに学校行事をはじめとする特別活動や部活動等の**生徒の活動の場の確保**に努めます。
- 統合の対象となる学校の関係者等で構成する**開設準備委員会**をあらかじめ設置し、統合校の教育活動の充実に向け、統合校の新たな名称、教育活動、目指す人財像等について検討するとともに、統合の対象となる学校間における連携や各校のあゆみを伝えるための資料の展示等について協議します。
- 統合の対象となる学校の卒業生に係る卒業証明書等の発行や指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等は、統合校が引き継ぎます。

地域校への対応(P26)

- 小規模校における教育活動の充実を図るため、各校との連携による教育活動に必要な施策を実施します。
- 地域校の規模・配置については、基本方針に定める基準等により対応します。1学級規模の地域校が基準に該当した場合、高校への通学が困難となる地域の生徒の通学への対応を含め、当該高校の所在する市町村等と募集停止等に向けた協議を行います。

定時制課程・通信制課程(P27)

(1) 定時制課程

- 青森工業高校・弘前工業高校・八戸工業高校の工業技術科は、平成33年度に募集停止します。

(2) 通信制課程

- 募集人員の増減はありません。

第4 県民の理解と協力の下での県立高等学校教育改革の推進(P29)

推進計画の進捗管理(P29)

- 高校教育を巡る環境の変化や中学校卒業生数の見込み、生徒の志願・入学状況等を確認の上、第1期実施計画の取組状況について検証し、**必要に応じて実施計画を見直**します。
- これまで翌年度分を公表してきた募集人員について、中学生が見通しを持って進路選択できるよう、**翌々年度分の見込みを含め公表**することとします。

第2期実施計画の策定(P29)

- 第2期実施計画の策定に当たっては、地区意見交換会を開催するなど、地域の意見を聴取しながら検討し、**平成33年度の決定**を目指します。

問い合わせ先

〒030-8540 青森市新町2-3-1 青森県教育庁高等学校教育改革推進室
電話 017-734-9866 ファックス 017-734-8003
詳しくは、**青森県 高校改革** **検索**
ホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/bunka/education/kenritukoutougakkoukyouikukaikaku.html>
メールアドレス E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp

